

2024年度 八洲学園高等学校 学校評価

【八洲学園高等学校 総合自己評価】

1 めざす学校像

教育理念 「すべての人が学ぶことの喜びと楽しさを知ることのできる場所であること」 八洲（やしま）とは、古事記にある日本の呼称のひとつですが、多くの島からなる国という意味でもあります。八洲学園は開学当初から、様々な年齢、様々な環境や状況の生徒さんを数多く受け入れてきた教育機関です。学園の名称である八洲（やしま）とは、今も昔も当学園の「すべての人に学ぶことの喜びや楽しさを知ってもらい、人生をより豊かにし、幸せになってもらいたい」という不変の想いの証でもあります。 教育目的 「社会への適応力を身につける」 「生きる力を育む」 高校生活とは勉強だけではありません。目の前に来ている自立の時を見据え、今までの自分自身、これからの自分自身をしっかりと受け止め、自己肯定し、自分を認め、他人を認め、そして他人からも認められ、ゆっくりと大切に自我を育む期間でなければなりません。八洲学園高等学校では、高校在学中に、それぞれの生徒さんの特長や優位な特性を伸ばし、コミュニケーション能力を中心に卒業後の社会で適応できる力を身につけることを念頭に教育を行います。 また、八洲学園高等学校は、座学での勉強だけでなく、体験学習や経験を大切にし、実体験の中から得られる経験こそが、その後の人生にとってかけがえのないものになると信じています。通信制だからできないではなく、通信制だからこそできる、経験できる、体験できる教育内容を構築しています。 卒業後に迎える「自立」に向けて、生きる力を身につけ、社会で活躍できる生徒を輩出することが八洲学園高等学校の大きな目的です。
--

2 中期的目標（Plan）

以下の項目において、当校の教育理念に沿った教育目標を達成するために、学校内外にある資源を組織として活用し、学習活動の成果を検証して、その強みと弱みを明らかにし、学校教育全体の底上げを図る。 1 学校運営 （1）教育課程、（2）教職員連携、（3）財務関係、（4）情報公開、（5）危機管理 2 教育内容 （1）面接指導・添削指導等、（2）情報教育、（3）人権教育、（4）その他 以下の項目において、教員・教科間の連携状況、会議の有効性、学習指導及びカンセリング体制についての教職員による自己評価を、学力の向上と除籍防止への寄与の観点から分析を行い、学校の強みと弱みを明らかにして、改善の方策を検討・実施する。教職員の資質向上の観点から、学校運営、教職員の連携、校内外の研修等について自己評価を行い、日常的なOJT（On the Job Training）の活性化を図るとともに、研修体系、指導体制などの充実に努める。 3 生徒指導・支援 （1）生徒指導、（2）進路指導、（3）生徒支援、（4）教職員研修、（5）管理
--

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】（Do、Check）

自己評価アンケートの結果と分析〔2025年2月実施分〕	学校評価委員会からの意見
○教職員 ・実施日 2025年2月1日～2025年2月28日 ・対象者 常勤教職員 60名 ・期日までに全常勤教職員より回答あり ・八洲学園高等学校 本校および通信教育連携施設毎に集計 【分析】 すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。2024年度も公開しているスクールポリシーおよび通信教育実施計画に基づいて教育活動を実践した。2024年度は概ね予定通りの行事や特別活動・各種授業が実施でき、スポーツ大会の実施もできた。また文化祭や修学旅行のなども実施することができ、積極的・活発的な教育活動を行うことができた。 ここ数年で、PC やタブレットなどを使用したオンラインでの学習対応や生徒対応も、生徒の状況にあわせて効果的に各教職員が協力しながら取り組むことができた。 教職員研修においては、進路指導部や生徒指導部を中心に、多様な状況の子どもたちに対応するための指導内容を、教職員が研究、発表することで教職員同士の情報交換を行うこともできた。	○学校評価委員会 ・実施日 2025年5月16日（金） ・学校評価委員 校長、副校長、教頭、主幹、事務長、事務次長、教務部長、総務部長、進路指導部長、生徒指導部長 ・学校評価委員により学校評価委員会を開催し、2024年度学校評価結果について分析を行った。 【意見】 2024年度は教育目標を達成できているが、物価高上昇により学校で準備する各種教材や教職員の研究資料・教材等への影響、対応についての問題点の指摘が多くあった。 なお、特に光熱水費の高騰に対し、問題意識を感じている教職員や学校関係者が多数いた。電気や水道など必要に応じて適切に使用していくが、消し忘れ、止め忘れを中心としたエネルギーの無駄遣いにならないような適切な使用方法を、学校全体で改めて実施していくことで意見が一致した。また、教育内容については、1、ICT教育機器の設備拡充 2、情報モラルに関する教育指導の充実 3、情報能力育成の促進、上記3点についての課題および問題提起が多くあった。特に2、情報モラルについては、SNSを中心とした生徒間トラブルが頻発している為、SNS使用時のルールや注意点を学校から積極的に発信、教育指導を行うことの必要性を感じている教職員や学校関係者が多く、2025年度に向けての取り組みを強化することで委員会では意見が一致した。

【自己評価アンケートを踏まえ2025年度の改善点】（Action）

1、オンラインによる学習および各種指導の充実について ICT教育の研究およびオンライン機器の整備および拡充、またSNSの使用ルールを中心とした情報リテラシー教育に関しての充実を図る。 2、物価上昇に対応する為、できる限り資源利用の無駄を減らし、ペーパーレス化などデジタル対応への移行を進める。
--

【八洲学園高等学校 施設別 自己評価】

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見および自己評価アンケートを踏まえた改善点】（Do、Check、Action）

施設名	分析	意見	改善点
堺本校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 堺本校は全ての施設の中で在籍生徒数が最も多い施設である為、学習内容や教育内容についても、多様な生徒さんの状況にあわせた形で最も多くの実践ができています。	生徒数が多い為、施設（教室や廊下、トイレなど）の修繕を要する箇所が増えてきている為、定期的なメンテナンスを実施する必要があるとの意見が出た。	施設設備のメンテナンスにかかる予算を設定し、定期的な施設内点検を行う。
横浜分校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 横浜分校は関東施設において堺本校に準じる位置づけである分校施設である。関東の施設の中で在籍生徒数が最も多い施設である為、学習内容や教育内容についても、多様な生徒さんの状況にあわせた形で最も多くの実践ができています。	同一施設内に、八洲学園大や保育所が併設されている為、施設間での連携を密に取り、大学との高大連携や保育所児童とのお世話交流などを実施し、在校生への教育活動の方向性を広げるべきとの意見が出た。	八洲学園大学や保育所の職員との連絡・連携を密にする。
大阪中央校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 大阪中央校は大阪市内にある分校施設である為、関西の施設の中で交通の便が非常に良く多くの生徒が在籍している施設である。6F 建ての建物である為、生徒の講堂で目の行き届かない場所もある為、教職員が連携して校内巡視など徹底している。	近隣に大阪城や史跡地が多くある玉造にある校舎なので、特別活動や地歴・公民などのスクーリング、その他特学習などで積極的に地域の情報を取り入れるべきとの意見が出た。	地域情報を把握し、教職員間でしっかりと情報共有を行う。
梅田キャンパス	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 梅田キャンパスは学習等支援施設である為、特別学習を中心に行う施設だが、一般学習を実施する本校、分校に在籍生徒が確実に出席できるように、各生徒のスケジュールや学習状況の進捗を教職員が連携してしっかりと管理・把握に努めている。 また、梅田は大阪中心の繁華街である為、登校時の電車や通学経路など多岐に渡る。生徒・保護者が迷わないようにしっかりと誘導をする必要がある施設である。	特別学習において基礎学習や学び直しの学習に力を入れている生徒が多く、教職員の研修や研究の機会をもっと多く増やし、もっと充実した学習内容の提供をしたいとの意見が出た。	教職員研修制度を活用できるように、制度周知の充実を図る。
三宮キャンパス	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 三宮キャンパスは学習等支援施設である為、特別学習を中心に行う施設だが、一般学習を実施する本校、分校に在籍生徒が確実に出席できるように、各生徒のスケジュールや学習状況の進捗を教職員が連携してしっかりと管理・把握に努めている。 三宮キャンパスは技能連携校であるみのり高等部と同じ建物で運営している為、みのり高等部の生徒との交流を図りながら、教育内容が混同しないように注意して運営をしている。	特別学習において基礎学習や学び直しの学習に力を入れている生徒が多く、教職員の研修や研究の機会をもっと多く増やし、もっと充実した学習内容の提供をしたいとの意見が出た。	教職員研修制度を活用できるように、制度周知の充実を図る。
新宿キャンパス	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 新宿キャンパスは学習等支援施設である為、特別学習を中心に行う施設だが、一般学習を実施する本校、分校に在籍生徒が確実に出席できるように、各生徒のスケジュールや学習状況の進捗を教職員が連携してしっかりと管理・把握に努めている。 新宿キャンパスは、学習等支援施設の中では最も在籍人数が少なく、少人数、個別対応を中心とした施設である為、配慮を要する生徒に対して丁寧な対応を特に心がけている。	少人数の生徒対応の機会が多い為、生徒個々の状況にできる限りあわせた教材作成の必要性を感じたとの意見が出た。	教職員研修制度を活用できるように、制度周知の充実を図る。
池袋キャンパス	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 池袋キャンパスは学習等支援施設である	特別学習において基礎学習や学び直しの学習に力を入れている生徒が多く、教職員の研修や研究の機会をもっと多く	教職員研修制度を活用できるように、制度周知の充実を図る。

	為、特別学習を中心に行う施設だが、一般学習を実施する本校、分校に在籍生徒が確実に出席できるように、各生徒のスケジュールや学習状況の進捗を教職員が連携してしっかりと管理・把握に努めている。 池袋キャンパスは、関東の学習等支援施設の中では、ベーシッククラスの在籍率が高く特別学習の為、毎日学校に登校する生徒が多い。登校する生徒が多い為、生徒間でのトラブルが起きないように教職員が連携して丁寧な対応を特に心がけている。	増やし、もっと充実した学習内容の提供をしたいとの意見が出た。	
やしま学園高等専修学校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 やしま学園高等専修学校は同一法人の専修学校である為、教職員間の連携を密に取りながら教育活動を行うことができている。	技能連携校と実施校の教職員間の情報交換や連携を今以上に密にし、技能連携生の一般学習における指導内容がより充実した内容になるようにしたいとの意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
美芸学園高等専修学校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 美芸学園高等専修学校は、少人数の生徒にきめ細やかな技能教育を実施している。	技能連携校と実施校の教職員間の情報交換や連携を今以上に密にし、技能連携生の一般学習における指導内容がより充実した内容になるようにしたいとの意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
大阪美容専門学校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 大阪美容専門学校は、美容師の国家資格の合格を目指す学生が実践的な技能を学ぶ場として教育活動を実施している。	技能連携校と実施校の教職員間の情報交換や連携を今以上に密にし、技能連携生の一般学習における指導内容がより充実した内容になるようにしたいとの意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
エコーペットビジネス総合学院	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 エコーペットビジネス総合学院は、ペット・動物に関する専門的な知識と技能を学ぶ場として教育活動を実施している。	技能連携校と実施校の教職員間の情報交換や連携を今以上に密にし、技能連携生の一般学習における指導内容がより充実した内容になるようにしたいとの意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
神戸女子洋裁専門学校	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 神戸女子洋裁専門学校は、少人数の生徒にきめ細やかな技能教育を実施している。	技能連携校と実施校の教職員間の情報交換や連携を今以上に密にし、技能連携生の一般学習における指導内容がより充実した内容になるようにしたいとの意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
日本高等美容専門学校	多くの項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 日本高等美容専門学校は、美容師の国家資格の合格を目指す学生が実践的な技能を学ぶ場として教育活動を実施している。	数学が苦手な生徒たちの理解力向上の為数学Ⅰのレポート等の改善に関する意見や八洲学園高校の学費の支払い状況などの情報共有についての意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
町田みのり高等部	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 町田みのり高等部は同一法人内企業の学校である為、教職員間の連携を密に取りながら教育活動を行うことができている。 少人数のクラスできめ細やかな対応を実施している教育施設である。	町田みのり高等部で実施をしている特別支援に関する教育内容や指導内容を八洲学園高校の教職員ともしっかりと共有や情報交換を行い、お互いの教育施設が今以上にしっかりとした教育内容になるようにしたいとの意見が出た。	みのり高等部の教職員との交流を図り、八洲学園高等学校との共同での教育研究や研修を行う。
静岡高等学園	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 静岡高等学園は配慮を要する生徒一人一人にきめ細やかな対応をし、就職や社会での活躍する人材を育成している技能教育施設である。	技能連携校と実施校の教職員間の情報交換や連携を今以上に密にし、技能連携生の一般学習における指導内容がより充実した内容になるようにしたいとの意見が出た。	技能教育施設との情報共有の機会を増やし、指導内容の充実を図る。
三宮みのり高等部	すべての項目において、概ね教育目標は達成できているとの教職員評価であった。 三みのり高等部は同一法人内企業の学校である為、教職員間の連携を密に取りながら教育活動を行うことができている。 少人数のクラスできめ細やかな対応を実施している教育施設である。	三宮みのり高等部で実施をしている特別支援に関する教育内容や指導内容を八洲学園高校の教職員ともしっかりと共有や情報交換を行い、お互いの教育施設が今以上にしっかりとした教育内容になるようにしたいとの意見が出た。	みのり高等部の教職員との交流を図り、八洲学園高等学校との共同での教育研究や研修を行う。

学校自己評価(学校運営・教育内容に関するもの)

2024年度重点テーマ		自己評価に基づく、自主的・自立的な学校運営改善
目標（ねらい）	当校の教育理念に沿った教育目標を達成するために、学校内外にある資源を組織として活用し、学習活動の成果を検証して、その強みと弱みを明らかにし、学校教育全体の底上げを図る。	

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方策
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共通理解できている。	5	教育課程の編成・実施の考え方について、教職員間で共通理解ができている。	教務部を中心に教科間の連携を増やし、先ずは、各教科内で研修や、各々の授業見学・授業評価をするなどし、積極的機会を設ける。
		教育目標・計画	生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取り組みを心がけている。また、生徒の学習について評価や評定の工夫が行われている。	5		
		通信制高校ガイドライン	高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン(文部科学省)に沿った学習指導計画を行っている。	5		
	教職員連携	組織運営	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制が整備されている。	5	校務分掌や主任制等、学校の明確な運営・責任体制も整備されているが、経験年数の多い教職員を中心に業務の偏りがある。教員間教科間の相互理解は、勤務地(キャンパス)が離れていることもあり、難しい面もあるが、ZOOM等のオンラインソフトの使用率が上がり、教職員間の相互理解・信頼関係を積極的に行える環境にもなりつつある。今後、職員会議をはじめ各部会議など、オンライン機器を益々使い、引き続き有効かつ効率よく機能するよう努力する必要がある。	一部の教職員に業務の偏りが発生しない様に、学校組織全体で全教職員のボトムアップの取り組みを行う必要がある。また、可能な限り業務内容をスリム化し、オンライン機器の効率的な活用を中心に全体的な職員会議や分掌会議など、教職員間の連携・コミュニケーションの充実に努める。
		教員・教科間連携状況	教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	5		
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携がとれている。	4		
		会議の有効性	職員会議をはじめ各部会が有効かつ効率的に機能している。	5		
	財務関係	財務に関する意識	学校の経営指標と財務状況について定期的に把握できる機会・環境がある	5	学校・学園の経営指標と財務状況について、多くの教職員は理解している。八洲学園の教職員は、原則過去複数年に渡る法人の財務情報(収入、支出、予算、決算)を自由に閲覧、ダウンロードできる環境にある。	教職員に対しては職員会議や学内電子掲示板等で、役員会の報告や予算・決算など法人財務に関する情報公開に努め、一般の方に向けては学園HPでの財務情報の公開による理解を深めるように努める。
		財務状況の把握	予算、決算の収支の状況について定期的に把握できる機会・環境がある。	5		
		評議員・理事会機能	評議員会、理事会の内容について、定期的に把握できる機会・環境がある。	5		
	情報公開	ホームページの活用状況	学校ホームページ等で学則・学校評価・いじめ防止の基本的な方針などの情報を公開している。学園HPなどで法人財務状況などの情報を公開している。	5	八洲通信やホームページ等で学則を含め必要な情報および定められた内容の最新情報公開をしている。また、保護者や入学希望者、近隣中・高の教職員など、希望があれば積極的に授業公開を行っている。ZOOMを用いたオンラインでの授業公開も行っている。	HP・公開授業とともに今後も積極的に情報公開を実施する。
		授業公開状況	保護者へスクーリングを公開したり、出席状況等を定期的に報告している。	4		
	危機管理	役割分担	事故、事件、災害時に対処する役割を分担されている。	5	危機管理マニュアルの作成を行い、全教職員で定期的な内容確認を実施した	危機管理マニュアルの作成および、防災関連備品の購入、各施設での年1回以上の消防訓練の実施を行い、職員研修としてAED講習や防火管理者資格の取得する。
		安全管理	校内の安全点検活動を実施している。	5		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策がとられている。	5		
教育内容	面接指導・添削指導等	学習指導	スクーリングでは各教員が工夫をし、体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味関心を生かし、自主的・自発的に学習を進めることができるよう工夫している。	5	スクーリング指導等について、教務部が中心になって指導計画が作成できている。また、生徒の実態に合わせて指導方法の改善を行っている。	教務部を中心に、学習指導内容のよりよいものとなるよう充実を図る。
			リポートや視聴覚教材などの教材を定期的に見直し、改善を試みている。	5		
			面接指導・添削指導・単位認定試験は、認可施設である実施校のみで実施している。	5		
	情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	4	オンラインでの学習指導が増えている反面、情報モラルの観点での生徒指導が増えてきている。生徒の所持している情報機器も多様化をしている中、生徒間の情報機器を使用したコミュニケーションに伴うトラブルを防ぐ為に情報リテラシー教育にもっと力を入れる必要がある。	学校行事(特別活動)や情報科のスクーリングを中心に啓蒙の取り組みを始める。
		情報モラル指導	情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に取り組んでいる。	4		
		ICT教育設備	生徒・教職員が利用できるICT教育設備が充実している。	4		
	人権教育	研究体制	人権尊重・いじめ防止に関するさまざまな課題や指導方法を教職員が研究している	4	特別活動を中心に、人権教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	教職員が年間指導計画に沿って目標を達成できるよう研修の機会を設ける。
		教育体制	社会の一員としての意識(公正、勤労、奉仕、公共心、公徳心や情報モラルなど)について、指導している。	5		
			命の大切さや環境の保全などについて指導し、人権尊重やいじめ防止の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	4		
	その他	学校行事	遠足・実習などの学校行事を充実させている。	4	学校行事・特別活動は、年間スケジュールを立てて、行事目的を設定できている。今後、オンラインでの学校行事や特別活動は今後も活用しつつ、充実した内容の企画、計画を検討、実施する必要がある。	引き続き感染症対策の備品補充には注意しつつ、校内、校外での活動計画を積極的に組み立てていく
		部活動	部活動の在り方に関する総合的なガイドラインがあり、ガイドラインに沿った部活動運営がなされている。	4		
		特別活動	計画的に教育活動に取り入れている。	4		
		感染症対策	マスク・消毒液・体温計などの感染症対策に必要な備品が整っている。	5		

学校自己評価(生徒指導・進路指導・支援・教職員研修などに関するもの)

2024年度重点テーマ		自己評価に基づく、自主的・自立的な学校運営改善
目標（ねらい）	教員・教科間の連携状況、会議の有効性、学習指導及びカウンセリング体制についての教職員による自己評価を、学力の向上と除籍防止への寄与の観点から分析を行い、学校の強みと弱みを明らかにして、改善の方策を検討・実施する。教職員の資質向上の観点から、学校運営、教職員の連携、校内外の研修等について自己評価を行い、日常的なOJT(On the Job Training)の活性化を図るとともに、研修体系、指導体制などの充実に努める。	

分類	評価の観点	評価項目	設問	評価	評価の観点と理由	改善方策
生徒指導・進路指導・支援	生徒指導	指導方針の一貫性	生徒指導は学校の方針に従い、除籍率の減、単位修得率の増を心掛けている。	5	生徒指導については、生徒指導部を中心に組織的に対応する体制はある。しかし、生徒を対象とする保健(薬物乱用防止、心のケア等)に関する体制整備や指導・相談できる体制が十分に整っていないことは事実であり、今後も生徒指導部中心に教職員全体で研鑽が必要である。	生徒・保護者との連絡・連携がスムーズに行えるよう定期的な連絡を欠かさないようにする。また、問題事象発生時に複数の教職員で連携して対応できるように、各施設での教職員間の情報共有を徹底し、生徒指導部および管理職への報告も徹底する。
		生活指導について	生徒の生活指導に、教職員全体として組織的に対応する体制がある。	5		
		家庭との連携状況	保護者と連携計画して情報交換を行い、基本的な生活習慣を身に付けさせる為の工夫ができています。また、保護者会や保護者面談を行い、保護者との連携を充実させている。	5		
		保健管理	生徒を対象とする保健(薬物乱用防止、心のケア等)に関する体制整備や指導・相談ができる体制がある。	5		
	進路指導	キャリア教育について	教職員全体として組織的にキャリア教育(進路指導)に取り組む体制が整備されている。また、生徒の適切な勤労観・職業観の形成や、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度の育成のための体系的・系統的な指導ができるよう工夫している。	5	キャリア教育、進路指導において、卒業生の進路未決定者0人を目標としているが、達成はできていない。卒業率が上がってきている状況の中で、進路指導の重要性は今後益々大きくなってきているので、今後積極的に指導内容の改善に取り組む必要がある。支援を要する子ども達が社会的自立をできるようになる為のプログラム作成が必要である。	進学だけでなく就職に関する指導を引き続き充実させていく。支援を要する子ども達に対しては、子どもの特性を可能な限り把握できるよう努め、その子どもに適した進路指導を行う。
	生徒支援	カウンセリング体制	スクールカウンセリングなど、カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。また、中途退学者の生徒を一人でも少なくすることに誠意努力している。	4		
情報発信		定期的に学校説明会や保護者会を開き、不登校等に関するさまざまな問題の支援と情報提供を行っている。	5			
教職員研修など	教職員研修	資質向上	教員間で校務内容を評価、意見交換などを行う機会がある。	5	教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会が少ないが、研修については概ね計画通り実施した。	教職員研修を積極的に実施できるように制度整備を行った。また、自主的な研修以外に、各分掌やキャンパスなどで集団で行う教育研修も活発に行っている。
		校外研修	教職員が計画的に校外研修を受けることが出来る体制がある。	5		
		研修成果の共有状況	研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。	4		
		他校種・関係機関等との連携	全国高等学校通信制教育研究会・私立中学校高等学校連合会等の団体に加盟し、多様化した生徒に応じた通信制教育の改善と充実を図っている。	5		
	管理	光熱水費	学校において環境問題に対応するため、使用する光熱水費や用紙量等の削減について取り組みをしている。	5		
		文書管理	学校において備えつけなければならない表簿(学校日誌等)は適切に管理(データ化含む)されている。また、諸事務等の情報化が進められている。	5		

			管理職						関東						関西						合計						%					
			A	B	C	D	E	合計	A	B	C	D	E	合計	A	B	C	D	E	合計	A	B	C	D	E	合計	A	B	C	D	E	合計
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	28	7	1	0	0	36	54	9	1	0	0	64	84%	14%	2%	0%	0%	100%
		教育目標・計画	6	0	0	0	0	6	17	4	1	0	0	22	28	6	2	0	0	36	51	10	3	0	0	64	80%	16%	5%	0%	0%	100%
		通信制高校ガイドライン	6	0	0	0	0	6	22	0	0	0	0	22	31	5	0	0	0	36	59	5	0	0	0	64	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	教職員連携	組織運営	6	0	0	0	0	6	19	3	0	0	0	22	25	9	2	0	0	36	50	12	2	0	0	64	78%	19%	3%	0%	0%	100%
		教員・教科間連携状況	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	22	14	0	0	0	36	48	16	0	0	0	64	75%	25%	0%	0%	0%	100%
		教員と事務職員の連携状況	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	25	8	3	0	0	36	51	10	3	0	0	64	80%	16%	5%	0%	0%	100%
		会議の有効性	6	0	0	0	0	6	16	4	1	0	0	21	26	8	1	1	0	36	48	12	2	1	0	63	76%	19%	3%	2%	0%	100%
	財務関係	財務に関する意識	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	33	3	0	0	0	36	60	4	0	0	0	64	94%	6%	0%	0%	0%	100%
		財務状況の把握	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	34	2	0	0	0	36	61	3	0	0	0	64	95%	5%	0%	0%	0%	100%
		評議員・理事会機能	5	1	0	0	0	6	13	8	1	0	0	22	23	11	1	1	0	36	41	20	2	1	0	64	64%	31%	3%	2%	0%	100%
	情報公開	ホームページの活用状況	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	31	4	1	0	0	36	58	5	1	0	0	64	91%	8%	2%	0%	0%	100%
		授業公開状況	6	0	0	0	0	6	19	3	0	0	0	22	27	8	0	1	0	36	52	11	0	1	0	64	81%	17%	0%	2%	0%	100%
	危機管理	役割分担	6	0	0	0	0	6	19	3	0	0	0	22	25	10	1	0	0	36	50	13	1	0	0	64	78%	20%	2%	0%	0%	100%
		安全管理	5	1	0	0	0	6	15	7	0	0	0	22	27	7	2	0	0	36	47	15	2	0	0	64	73%	23%	3%	0%	0%	100%
		危機管理対応状況	6	0	0	0	0	6	17	4	1	0	0	22	30	6	0	0	0	36	53	10	1	0	0	64	83%	16%	2%	0%	0%	100%
教育内容	面接指導 添削指導等	学習指導	6	0	0	0	0	6	18	4	0	0	0	22	27	8	1	0	0	36	51	12	1	0	0	64	80%	19%	2%	0%	0%	100%
			6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	32	3	1	0	0	36	58	5	1	0	0	64	91%	8%	2%	0%	0%	100%
			6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	32	4	0	0	0	36	59	5	0	0	0	64	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	情報教育	情報能力育成	6	0	0	0	0	6	16	6	0	0	0	22	19	12	5	0	0	36	41	18	5	0	0	64	64%	28%	8%	0%	0%	100%
		情報モラル指導	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	22	12	2	0	0	36	49	13	2	0	0	64	77%	20%	3%	0%	0%	100%
		ICT教育設備	4	2	0	0	0	6	8	13	0	1	0	22	20	14	2	0	0	36	32	29	2	1	0	64	50%	45%	3%	2%	0%	100%
	人権教育	研究体制	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	23	9	4	0	0	36	50	10	4	0	0	64	78%	16%	6%	0%	0%	100%
		教育体制	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	23	9	4	0	0	36	49	11	4	0	0	64	77%	17%	6%	0%	0%	100%
			6	0	0	0	0	6	19	3	0	0	0	22	23	10	3	0	0	36	48	13	3	0	0	64	75%	20%	5%	0%	0%	100%
	その他	学校行事	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	32	4	0	0	0	36	59	5	0	0	0	64	92%	8%	0%	0%	0%	100%
		部活動	6	0	0	0	0	6	17	3	1	1	0	22	26	7	3	0	0	36	49	10	4	1	0	64	77%	16%	6%	2%	0%	100%
		特別活動	6	0	0	0	0	6	22	0	0	0	0	22	33	3	0	0	0	36	61	3	0	0	0	64	95%	5%	0%	0%	0%	100%
		国際理解	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	31	5	0	0	0	36	57	7	0	0	0	64	89%	11%	0%	0%	0%	100%
進学生 支援指導	生徒指導	指導方針の一貫性	6	0	0	0	0	6	22	0	0	0	0	22	30	4	2	0	0	36	58	4	2	0	0	64	91%	6%	3%	0%	0%	100%
		生活指導について	6	0	0	0	0	6	22	0	0	0	0	22	25	7	4	0	0	36	53	7	4	0	0	64	83%	11%	6%	0%	0%	100%
		家庭との連携状況	6	0	0	0	0	6	21	1	0	0	0	22	25	9	2	0	0	36	52	10	2	0	0	64	81%	16%	3%	0%	0%	100%
	進路指導	保健管理	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	22	6	8	0	0	36	48	8	8	0	0	64	75%	13%	13%	0%	0%	100%
		キャリア教育について	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	25	10	1	0	0	36	51	12	1	0	0	64	80%	19%	2%	0%	0%	100%
	生徒支援	カウンセリング体制	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	32	4	0	0	0	36	58	6	0	0	0	64	91%	9%	0%	0%	0%	100%
		情報発信	5	1	0	0	0	6	20	1	1	0	0	22	20	11	3	2	0	36	45	13	4	2	0	64	70%	20%	6%	3%	0%	100%
教職員 研修など	教職員研修	資質向上	6	0	0	0	0	6	16	5	1	0	0	22	22	8	5	1	0	36	44	13	6	1	0	64	69%	20%	9%	2%	0%	100%
		校外研修	6	0	0	0	0	6	16	6	0	0	0	22	24	8	4	0	0	36	46	14	4	0	0	64	72%	22%	6%	0%	0%	100%
		研修成果の共有状況	5	1	0	0	0	6	17	4	1	0	0	22	22	10	4	0	0	36	44	15	5	0	0	64	69%	23%	8%	0%	0%	100%
		他校種・関係機関等との連携	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	33	3	0	0	0	36	59	5	0	0	0	64	92%	8%	0%	0%	0%	100%
	管理	光熱水費	5	1	0	0	0	6	13	9	0	0	0	22	24	8	3	1	0	36	42	18	3	1	0	64	66%	28%	5%	2%	0%	100%
		文書管理	6	0	0	0	0	6	20	2	0	0	0	22	31	4	1	0	0	36	57	6	1	0	0	64	89%	9%	2%	0%	0%	100%